

# 災害と感染症考える

## 医療関係者ら意見交換

仙台・セミナー

### とを ち域 の地 守

大規模災害時の感染症  
防止に向けて医療関係者  
が意見交換する「災害感

染症対策セミナーin  
IYAGI」が19日、仙  
台市青葉区のフォレスト  
仙台で開かれ、災害医療  
関係者や自治体の災害担  
当者ら約80人が理解を深  
めた。

同研究所の江川新一教  
授（災害医療国際協力  
学）は、昨年11月の台風  
30号で甚大な被害が出  
たフィリピンの事例を紹  
介。政府や世界保健機関  
（WHO）、国際医療チ  
ームの連携が効果を発  
揮し、「破傷風、デング  
熱などの感染症につい  
ては注意深く監視され

た。飲料水、排せつ物管  
理が徹底された」と報告

災害時の感染症対策につ  
いて関係者が理解を深めた  
セミナー



静岡県立総合病院の袴  
田康弘総合診療センタ  
ー長は、静岡県内の病院の  
災害時におけるトイレ確  
保対策、衛生用アルコール  
備蓄状況などに関する  
アンケート結果を公表し  
た。「病院間でも格差が  
大きい。アンケート結果  
の共有により先進的な事  
例を学ぶことができる」  
と述べた。

同研究所の服部俊夫教  
授（災害感染症学）は「来  
年3月に仙台市内で開  
かれる第3回国連防災世  
界会議の先駆的ななセ  
ミナーと位置づけてい  
る。会議に向け、研究成  
果を報告できた」と話し  
た。